

タイトル 「前進し続ける、徒歩の擬人化」(動画1)

出演者 登校家 安江 皓祐

学校名 七里ガ浜高等学校

研究テーマ 「通学路に対する感謝の心 地面と向き合う情熱」

○「止まらない情熱と足音」

1 「自宅から」

- ・登校のスペシャリストとしての自覚
- ・突発的なことが起こりうる現実

2 「横断歩道」

- ・難易度の高い場所も基本に忠実に
～同級生、幼馴染みから見た人物像～
- ・物事に取り組む意識の高さ
- ・上級生から学ぶ努力家

3 「長時間通学」

- ・自分を見失わないことが大切
- ・登校への情熱はどこから

4 「駅構内」

- ・人込みは特に歩きスマホに注意
- ・前方不注意者が多数

5 「学校まで」

- ・特に自動車に注意

6 「登校」

- ・安全登校は1日のスタートライン
- ・ある意味プロ意識で通学を！

タイトル 「正義のヒーローが町の安全を守る」(動画2)

出演者 生徒会 山崎さん、加藤さん

学校名 藤沢西高等学校

研究テーマ「自転車運転時の交通ルール」

○「交通安全ポリス」より

1 「ながら自転車乗車」

- ・スマホ操作、傘さし運転は危険

(違反時は、道路交通法第71条、東京都道路交通規則第8条により5万円以下の罰金となる)

- ・手に物を持った片手運転も危険

2 「自転車の歩道走行」

- ・原則は車道通行

・例外的に歩道を通行する場合は、すぐに停止できる速度で、歩道の車道寄り、または指定された部分を走行する。歩行者の通行を妨げる場合は、一時停止できる速度(違反時は2万円の罰金または加料)

- ・「並進可」標識がなければ歩道走行は禁止

3 「2人乗り」

- ・原則禁止

(違反時は2万円の罰金または加料)

4 ルール順守

- ・交通事故に遭わないよう、ルールを守って、楽しい3年間を！(勉強も)

タイトル 「次はない 一つの不注意 大惨事」(動画3)

出演者 茅ヶ崎高等学校1年 生徒委員

学校名 茅ヶ崎高等学校

研究テーマ「交通安全意識を向上させる取組みとは？」

○議論：「安全な通学とは？」

～茅ヶ崎高校生によるアンケートより～

<現状>

- ・自転車通学者が多く、事故が増加傾向。

<危険箇所>

- ・国道1号線は非常に交通量が多く、住宅地を通行せざるを得ない状況
- ・狭道が多く、信号もなし
- ・小中学生の通学路と重なり、混雑
- ・スーパーもあり周辺は一般住民の通行多し
- ・校門では混雑時、徒歩と自転車の接触がある
- ・会社、工場が多く、出入り車輛も多数

<茅高生の事故状況>

- ・警察への報告や病院搬送があったのは8件
 - 対自転車 1件
 - 対車 5件
 - 自損事故 2件
- ・事故原因
 - 自動車の交差点飛び出し
 - パンク、チェーン外れによる整備不良

<茅高が抱える課題>

- 1 無灯火の危険性
- 2 学校周辺の狭道走行
- 3 ながら運転の危険
 - ・イヤホン着用、話しながらの並走
 - ・歩きスマホは自転車にとっても危険
- 4 歩行時
 - ・道に広がって歩いたり、自転車の並走は、事故の危険を増し、近隣の方々へ迷惑
 - ・自分だけなら問題ないという考えは危険

- ・横断歩道以外の横断、

- ・青信号点滅時の無理な横断

<交通安全意識の低下>

- ・信号を守る、基本的な交通ルールの順守が必要
- ・遅刻しそうな時のスピードの出しすぎ

↓

大事故の危険が潜む！

<解決方法>

- 1 全校生徒に注意喚起
- 2 学校周辺のハザードマップを作り、そのマップを実際の現場に貼ること。事故が減った地域もある
- 3 生徒達自身による呼びかけ
- 4 交通ルールの再確認
- 5 加害者事例の紹介
- 6 学校独自のルール設定
 - ・歩行者と自転車の通行帯の分離と明示
- 7 自転車点検を行い、ライト、反射板等の装着を呼びかけ
- 8 時間に余裕を持った通学

○まとめ

- 1 自分達にできることもたくさんあると認識できた。
- 2 校内放送、ポスター掲示により交通安全意識の啓蒙を図ることができる
- 3 交通マナーに関する意識を高める活動を積極的に行う
- 4 話し合いの内容を実行することが重要